

アシードホールディングス株式会社

会社近況報告会



【証券コード:9959】

ASEED アシードホールディングス株式会社
代表取締役社長 河本 大輔

1. 事業概要
2. 2026年3月期決算概況と今期通期見込
3. 成長戦略
4. ESGの取り組み
5. 株主還元
6. 質疑応答

商号	アシードホールディングス株式会社
所在地	広島県福山市船町7番23号
設立	1972年11月20日
代表者	代表取締役社長 河本 大輔
資本金	7億9,847万円
発行済株式数	13,495,248株
上場証券取引所	東京証券取引所 スタンダード市場
証券コード	9959
連結子会社	10社(2026年4月1日現在)
持分法適用 関連会社	(ベトナム) HaLong Beer And Beverage Joint Stock Company VIHAMARK GROUP JOINT STOCK COMPANY
従業員数	742名(グループ) 2026年3月31日現在



「明日(A)へ向けてまく種子(SEED)」は、自然と環境に感合して、果実を結びながら安定した良樹に成長する。我々は、因果律を基本とし、道義と知行合一の経営に努める。最良の品質と真心をもって、お客様の満足を追求し、人の健康と幸福を通じて豊かな社会の実現に貢献する。



ASEEDING THE FUTURE

人、地球、未来—すべての笑顔と健康のために

アシードグループは、人、地球、未来がもっと笑顔で健康になるために、その思いを込めた種をまき続け、実現に向けて貢献しながら、日々成長を遂げていくことを宣言します。

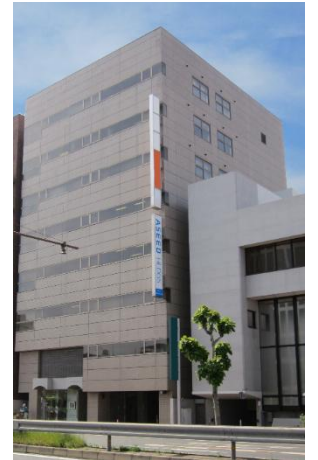
- ①飲料・食品を通じて、笑顔と潤いに溢れた健康な生活シーンを提供します。
- ②生き生きと笑顔で働き、豊かで健康な人生を送ります。
- ③未来のために地球と調和した持続可能な成長を続けます。

【グループミッション】

バランスある企業価値の最大化

事業価値	時代の要請と顧客ニーズにあった、すぐれた技術、製品及びサービスを提供し、社会の便益を図り、生活者とともに真の豊かさを実現する。
人間価値	人間尊重と人材育成を基本とし、社員の福祉向上と能力開発に努力し、働く個人に自己実現の場を提供する。
社会価値	自然、人類や社会の持続的・調和的な発展に貢献するため、市民社会のよき一員として積極的にその役割を果たす。
資本価値	組織の総力を結集して行動し、明日の事業活動(収穫)のための利益(種子)を確保し、企業存続と変革に要する未来費用として必要な付加価値の増大に努力する。

- 1972年 日本バンテン(株)を設立し、食品機器の販売を開始
- 1973年 中国フード機器(株)に商号変更し、自販機によるオペレーター業務を開始
- 1989年 アシード(株)に商号変更
- 1993年 日本証券業協会に株式を店頭登録
- 1999年 北関東ペプシコーラボトリング(株)(現・アシード(株))の株式を取得し子会社化
- 2000年 (株)三吉酒造場(現・アシードブリュー(株))の株式を取得し子会社化
- 2001年 東京証券取引所 市場第二部上場
- 2008年 アオンスエステート(株)を設立
アシード(株)をアシードホールディングス(株)に商号変更し持株会社制へ移行
- 2011年 宝積飲料(株)の株式を取得し子会社化
- 2013年 ベトナム・ホーチミンに駐在員事務所を開設
- 2014年 ベトナムのHaLong Beer And Beverage Joint Stock Companyの株式を取得し、持分法適用関連会社とする
- 2021年 連結子会社の北関東ペプシコーラ販売株式会社(現・アシード(株))が(株)いいじまの株式を取得し子会社化
ロジックイノベーション(株)の株式を取得し子会社化
- 2022年 東証の市場区分再編により、スタンダード市場を選択
(株)河村農園の株式を取得し子会社化
- 2023年 静岡ローストシステム(株)、マルサン萩間茶(株)の株式を取得し子会社化
- 2024年 アシードブリュー(株)及び宝積飲料(株)を会社分割(吸収分割)し、販売部門と製造部門に再編
アシードブリュー(株)をアシードビバレッジプラス(株)(販売部門)、宝積飲料(株)をアシードブリュー(株)(製造部門)に商号変更
- 2026年 ベトナムのVIHAMARK GROUP JOINT STOCK COMPANYの株式を取得し、持分法適用関連会社とする
連結子会社のアシード(株)が(有)日東バンディング中国の株式を取得し子会社化



アシードHD

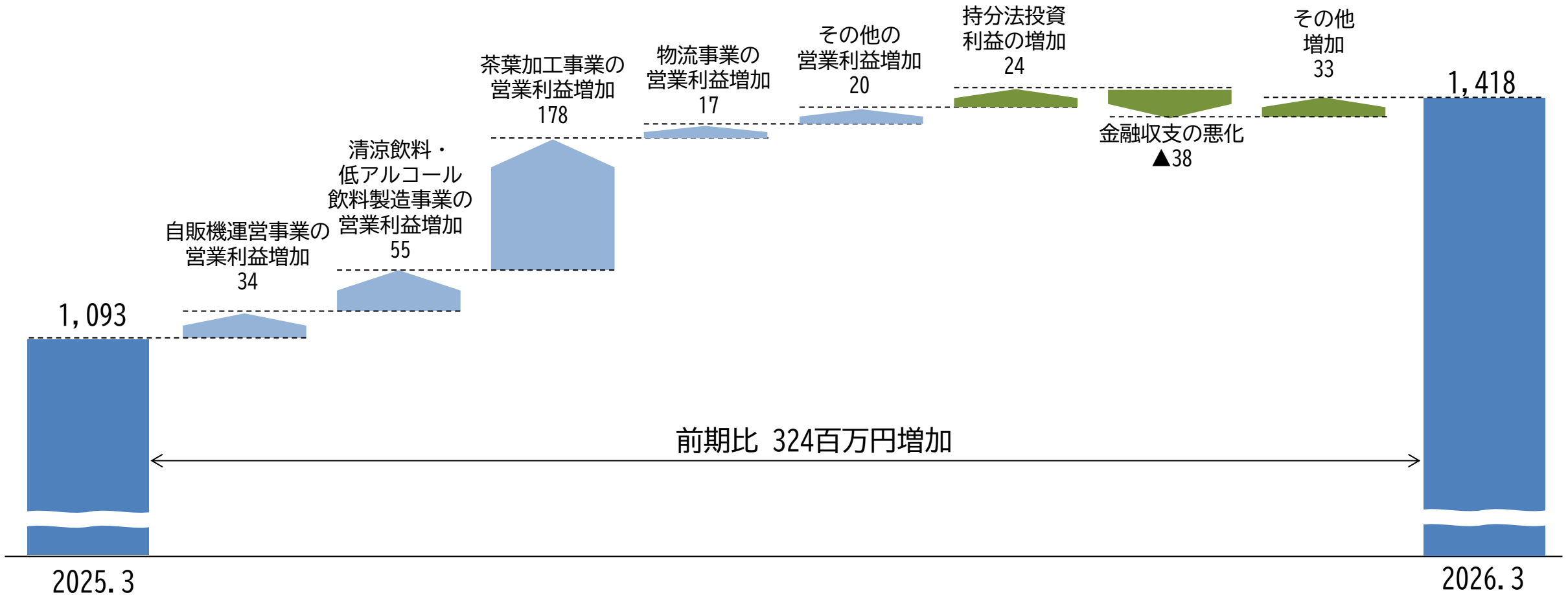
セグメント	社名	事業内容	セグメント売上高 連結売上に占める率 (2026年3月期)
自販機運営 リテイル事業	 アシード(株) (子会社)(株)いいじま (子会社)(有)日東ベンディング中国	飲料・食品自動販売システムの 運営・販売	13,892百万円 54.7%
飲料製造事業	5社合計		11,086百万円 43.6%
低アルコール飲料・ 清涼飲料製造	 アシードビバレッジプラス(株) (旧 アシードブリュー(株))	各種ソフトドリンク(清涼飲料水) 及び酒類の企画開発・販売	9,148百万円 36.0%
	 アシードブリュー(株) (旧 宝積飲料(株))	各種ソフトドリンク(清涼飲料水) 及び酒類の製造	
茶葉加工	 (株)河村農園	健康茶などの加工商品化・販売	1,938百万円 7.6%
	 静岡ローストシステム(株)	茶葉の受託加工・製造・販売	
	 マルサン萩間茶(株)	茶の加工及び販売、オンライン ストアの経営	
不動産運用事業	 アオンズエステート(株) アシードホールディングス(株)等の実績も含む	不動産の開発・運営・賃貸及び管理	142百万円 0.6%
その他事業	 ロジックイノベーション(株)	納品代行・納品前作業代行・輸送 業務・海外輸出入業務	288百万円 1.1%

1. 事業概要
- 2. 2026年3月期決算概況と今期通期見込**
3. 成長戦略
4. ESGの取り組み
5. 株主還元
6. 質疑応答

	2025年3月期	2026年3月期	増減率
売上高	23,969百万円	25,409百万円 (1,440百万円増)	6.0%
営業利益	765百万円	1,071百万円 (305百万円増)	40.0%
経常利益	1,093百万円	1,418百万円 (324百万円増)	29.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	748百万円	909百万円 (161百万円増)	21.5%

2026年3月期 経常利益増減要因

営業利益 営業外損益 (単位：百万円)

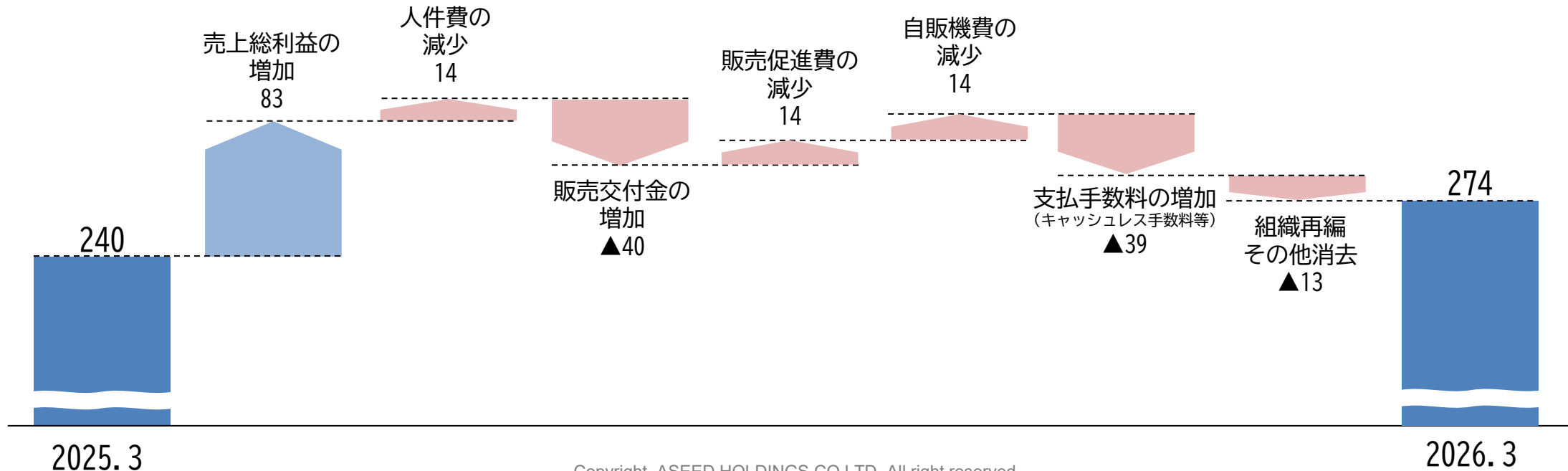


	売上高		営業利益	
	2025年3月期	2026年3月期	2025年3月期	2026年3月期
自販機運営リテイル事業	13,614百万円	13,892百万円	240百万円	274百万円

- ・飲料メーカー商品の相次ぐ値上げや消費者の節約志向により自販機離れによる販売数の減少が加速
- ・設置条件の改善や不採算機の引揚など利益率の改善に向けて取り組みを続ける
- ・業界再編の受け皿となるべく収益基盤の確立に注力

● 営業利益増減要因

■ 売上総利益 ■ 販売管理費 (単位：百万円)

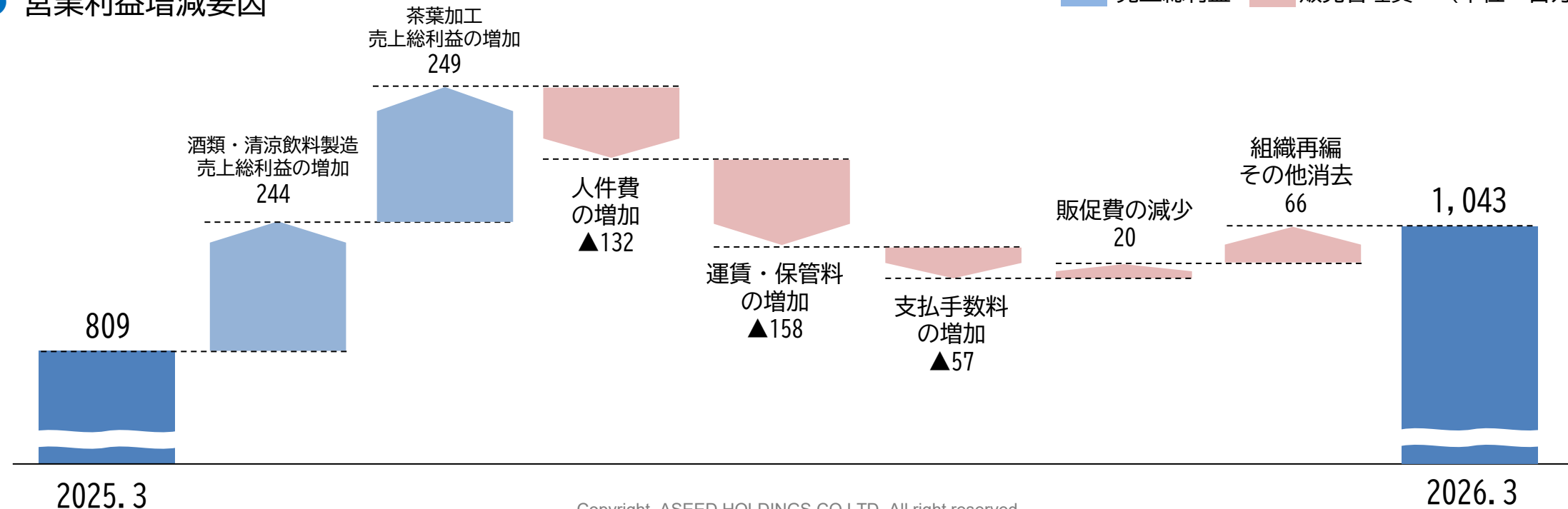


	売上高		営業利益	
	2025年3月期	2026年3月期	2025年3月期	2026年3月期
飲料製造事業	9,961百万円	11,086百万円	809百万円	1,043百万円

- ・世界的な抹茶ブームの恩恵を受け、静岡ローストシステム(株)の茶葉加工が堅調に推移
- ・酒類・清涼飲料の製造においては、製造数量が徐々に増加、前年の利益を上回る水準まで回復
- ・自社ブランド商品の拡販を中長期の最重要事項に位置づけ、新商品の投入やマーケティング・販売戦略を強化

● 営業利益増減要因

■ 売上総利益 ■ 販売管理費 (単位：百万円)



	売上高		営業利益	
	2025年3月期	2026年3月期	2025年3月期	2026年3月期
不動産運用事業	140百万円	142百万円	218百万円	220百万円
<ul style="list-style-type: none"> ・当社およびアオンスエステート(株)を中心に所有不動産の運用 ・セグメント間の内部売上高を含めると売上高は390百万円 				
その他事業	252百万円	288百万円	35百万円	52百万円
<ul style="list-style-type: none"> ・東西の物流部門を強化するとともに、グループ内物流の内製化を進める ・ロジックイノベーション(株)の環境事業を2025年12月に終了し、物流効率化に経営資源を集中 				

2026年3月期 連結貸借対照表

ASEED

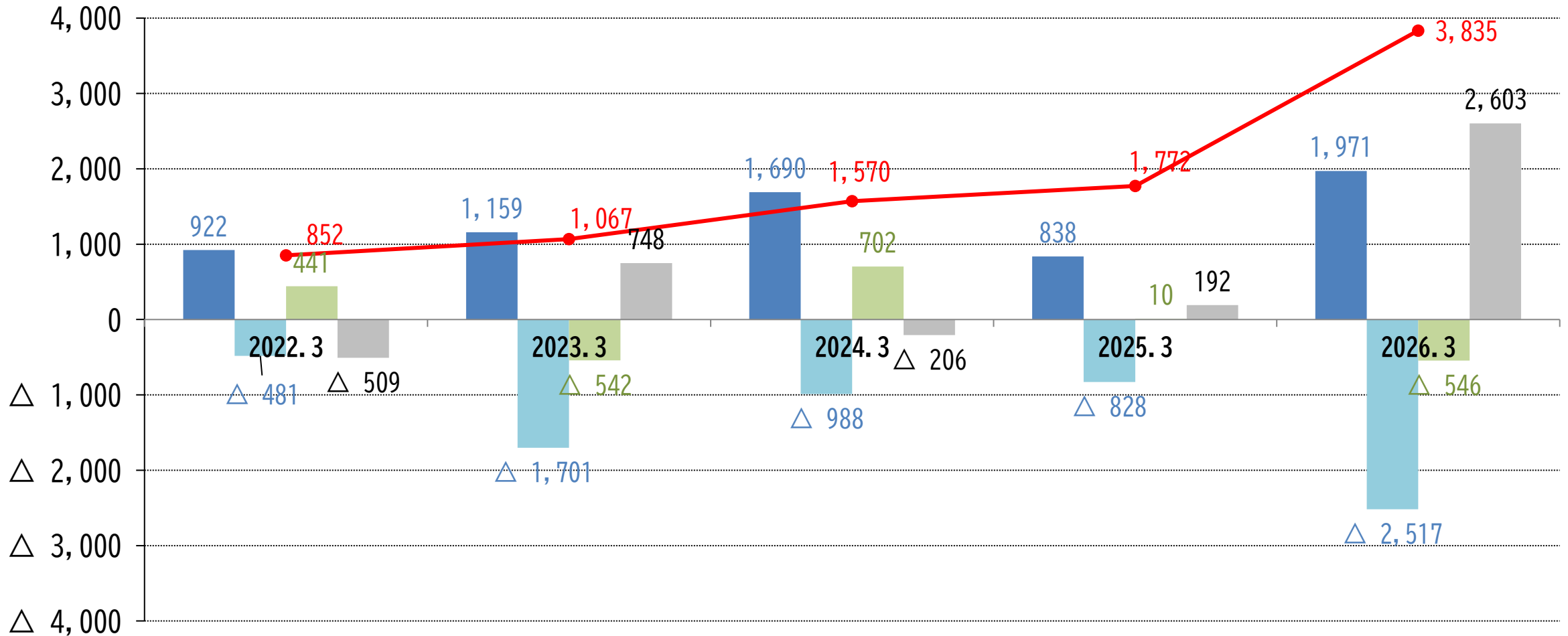
(単位：百万円)

科 目	2025.3	2026.3	増減	科 目	2025.3	2026.3	増減
資産の部				負債の部			
流動資産	7,505	10,139	2,634	流動負債	8,575	10,483	1,908
固定資産	12,149	14,006	1,856	固定負債	3,856	5,725	1,868
有形固定資産	9,626	10,704	1,077				
無形固定資産	223	148	△75	負債合計	12,431	16,208	3,776
投資その他の資産	2,299	3,153	853	純資産の部			
				株主資本	7,267	7,960	693
				その他の包括利益累計額	△44	△24	20
				純資産合計	7,223	7,936	713
資産合計	19,655	24,145	4,490	負債純資産合計	19,655	24,145	4,490

連結キャッシュフロー推移

(単位：百万円)

- 営業活動によるキャッシュ・フロー①
- 投資活動によるキャッシュ・フロー②
- フリーキャッシュフロー①+②
- 財務活動によるキャッシュ・フロー
- 現金及び現金同等物期末残高

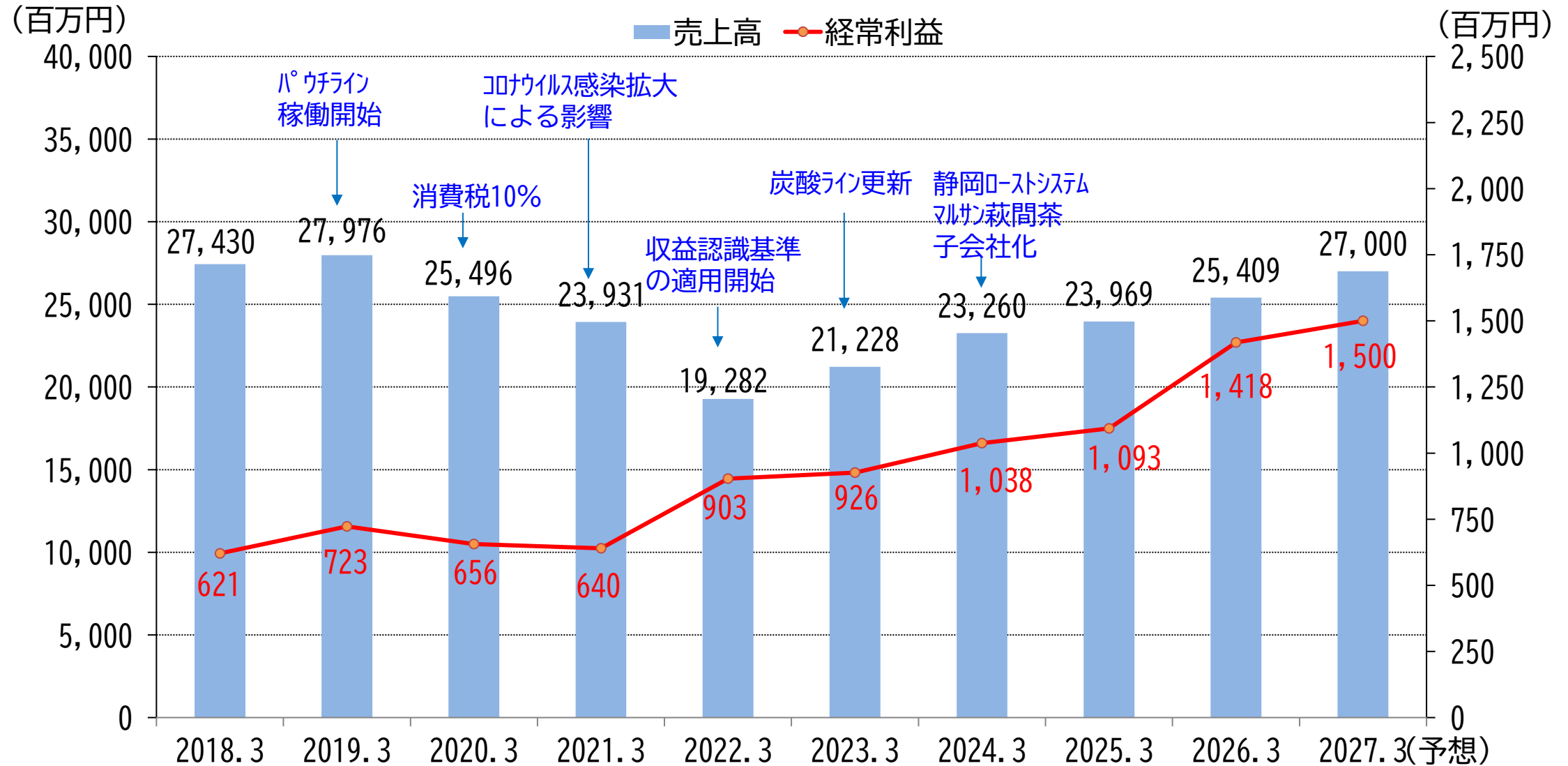


	2026年3月期 実績	2027年3月期 業績予想	増減率
売上高	25,409百万円	27,000百万円 (1,590百万円増)	6.3%
営業利益	1,071百万円	1,150百万円 (78百万円増)	7.3%
経常利益	1,418百万円	1,500百万円 (81百万円増)	5.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	909百万円	1,000百万円 (90百万円増)	9.9%

27期ぶり 経常利益最高益を目指す

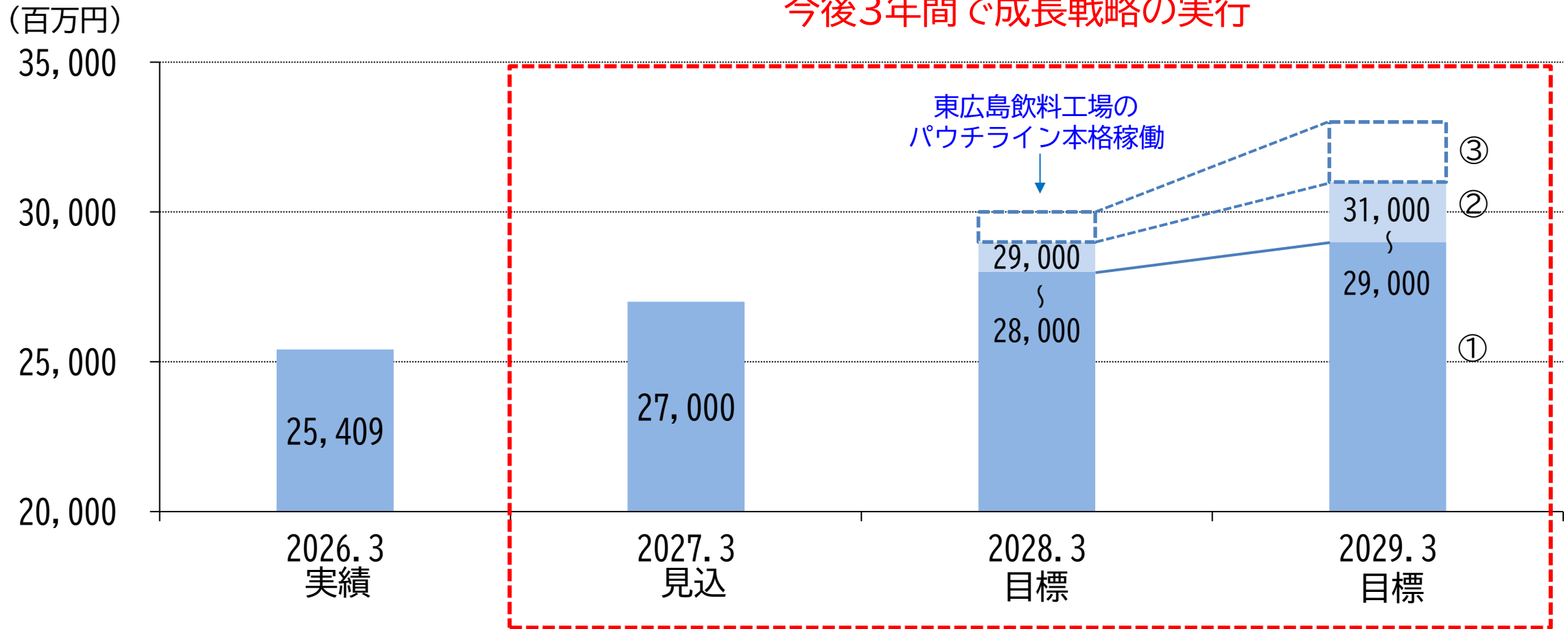
- ・ 自販機運営リテイル事業については、自販機ごとの採算管理を厳格化し増益を見込む。期初に(有)日東ベンディング中国の株式を取得、早期の収益化に取り組むが今期の業績への影響は軽微。
- ・ 飲料製造事業においては、製造加工数量増加基調の維持を目指す。イラン情勢の影響により、燃料費の高騰や原材料の更なる値上がりを想定するが、紛争の長期化による業績への影響は織り込まず。
- ・ 第4四半期にパウチ飲料製造工場の工事が完了する。製造ライン立ち上げ時の試験運転により費用が先行し、期間収益を圧迫することを想定。来期（2028年3月期）より本格稼働を予定。
- ・ 茶葉加工事業については引き続き高水準の受注を見込むものの、原料である茶葉の供給がひっ迫することが想定され、加工数量の増加については慎重な見立て。
- ・ 自社ブランド商品については、ブランド価値の創造に取り組むとともに、新商品を立て続けに発売し商品の拡充を目指す。プロモーション活動などへの投資を拡大する。
- ・ 金利上昇による営業外費用の増加を見込む。

過去10年の売上高・経常利益推移



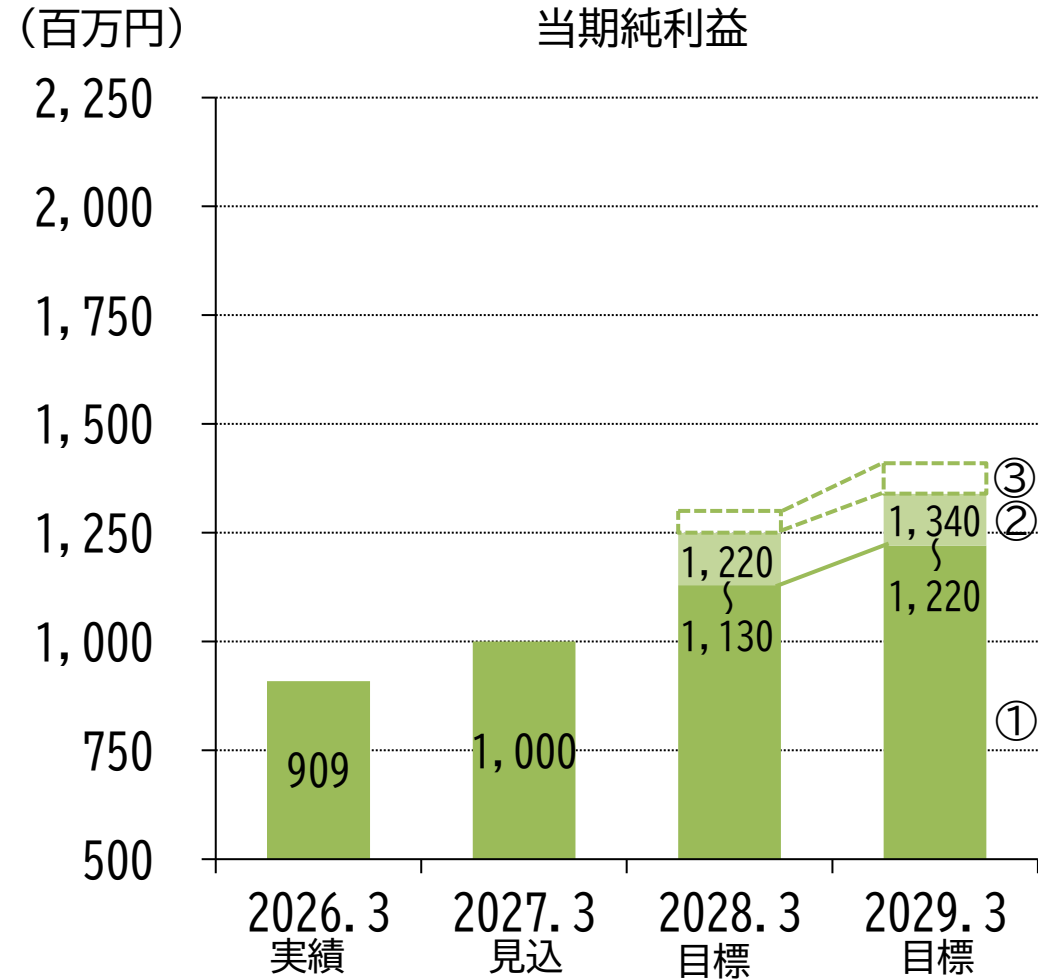
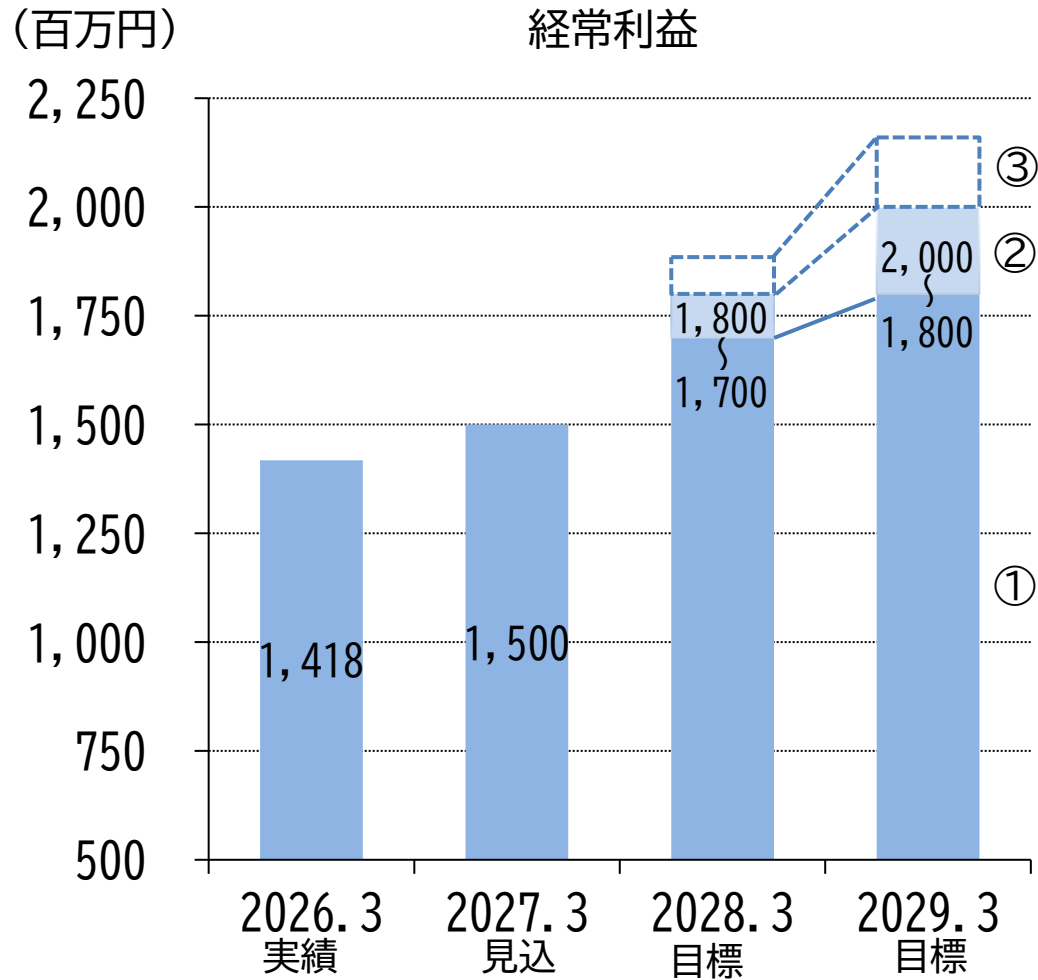
1. 事業概要
2. 2026年3月期決算概況と今期通期見込
- 3. 成長戦略**
4. ESGの取り組み
5. 株主還元
6. 質疑応答

今後3年間で成長戦略の実行



- ① 現在の事業力で達成できるレベル
- ② 現在の事業力で期待しうるレベル
- ③ 新たな事業創造により期待しうるレベル

- 新たな事業創造とは・・・
- (1) M&Aによる新たな収益源の獲得
 - (2) 新規事業の確立
 - (3) 自社ブランドの計画を上回る拡充



- ① 現在の事業力で達成できるレベル
- ② 現在の事業力で期待しうるレベル
- ③ 新たな事業創造により期待しうるレベル

- 新たな事業創造とは・・・
- (1) M&Aによる新たな収益源の獲得
 - (2) 新規事業の確立
 - (3) 自社ブランドの計画を上回る拡充

PBRは1.51倍(3月末株価)と1倍を上回る水準
成長戦略・株主還元を中心に更なる向上を目指す

※は2026年3月期実績

資本効率
良き投資の対象となる資本効率

ROE
(自己資本当期純利益率)
12%以上
※12.0%

資産効率
同業でトップクラスの資産効率

ROA
(総資産経常利益率)
7%以上
※6.5%

財務健全性
事業投資が可能な財務基盤

自己資本比率
35%程度を維持
※32.9%

株主還元
安定性、継続性を考慮した株主還元

配当性向
30%程度
※29.8%

①
ブランド創造企業へ —
アシードブランドの拡販、輸出強化

②
自販機運営リテイル事業において
独立系オペレーター No1 へ

③
飲料製造事業の生産性向上
新たな製造ラインの導入

④
海外ビジネスの強化と事業投資

⑤
物流事業の強化

⑥
新規事業創出とシナジー創出のための
新規投資の推進

①ブランド創造企業へ — アシードブランドの拡販、輸出強化

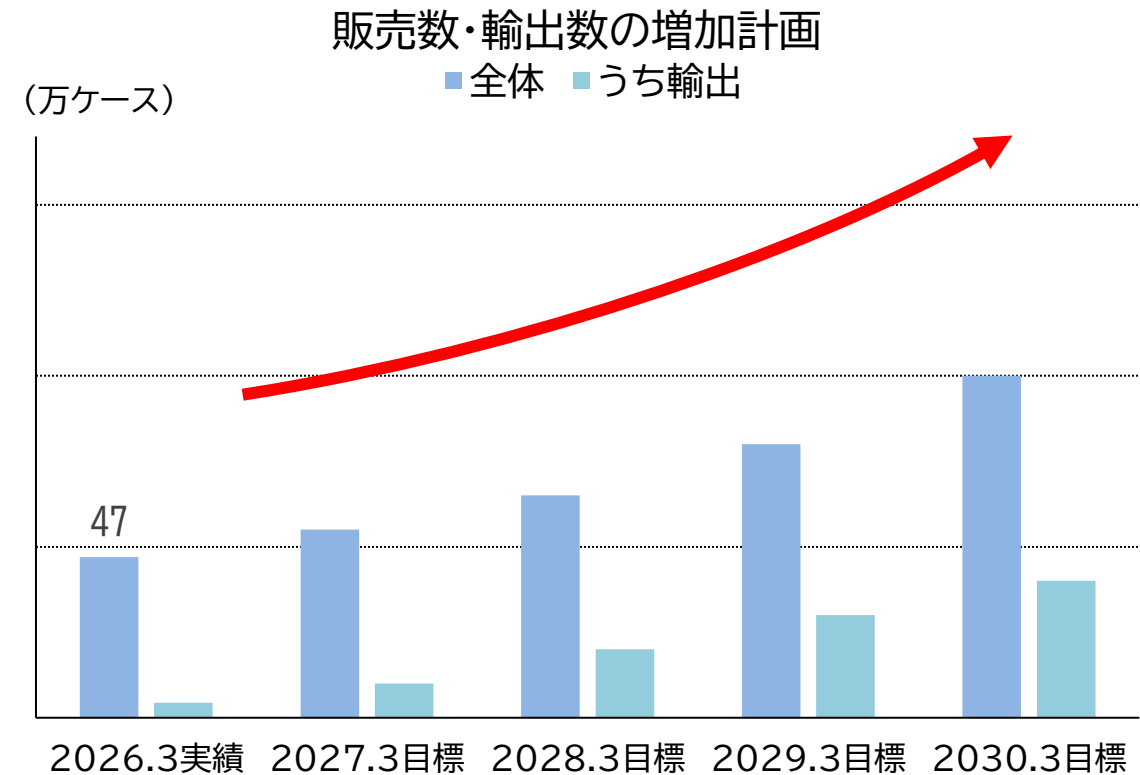
自社ブランドの認知度を上げ、商品販売数量を30年3月期までに150万ケースまで押し上げる

【マーケティング強化】

- ・自社ブランド商品の開発、販売促進強化、販売ネットワークの拡充のため積極的に経営資源を投入
- ・海外市場、特にASEAN諸国・欧米市場を中心に自社ブランド商品の輸出を強化

【開発力強化】

- ・独自性を出し、価格ではなく価値で勝負

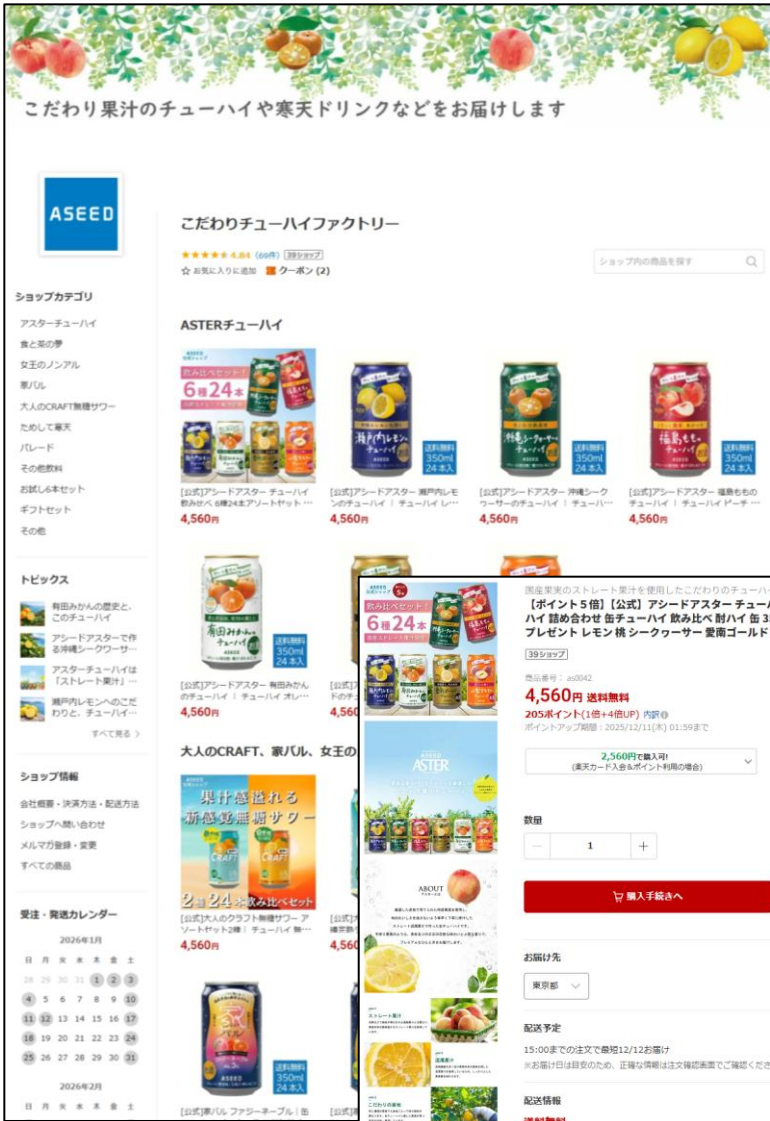


●販売店舗数の増加・試飲販売等の実施

スーパー、ドラッグストア、ホームセンターなどで採用され、販売店舗数も増加。
試飲販売やイベント出店も積極的に実施しています。



●ECの運営



Rakuten

楽天市場

● イベント出店

- ・福山ばら祭2026
- ・オクトーバーフェストしもつけ2025
- ・2025酒まつり(東広島 西条)
- ・その他



● 協賛

- ・広島ドラゴンフライズ 冠試合を開催
2025-2026シーズン プラチナパートナー
- ・その他



● 展示会への出展(輸出関係)

- 【輸出EXPO 2025】 2025年7月9日-11日
- 【シドニー 酒フェスティバル】 2025年9月24日-29日
- 【輸出EXPO 2025】 2025年12月3日-5日



今期は、外部の知見を活用した積極的なプロモーション活動を実施予定

「ASTERチューハイ」 厳選した地域で育った国産のストレート混濁果汁使用

果実のこだわり・産地が伝わりやすいデザインに刷新、金蓋採用で高級感を演出



瀬戸内レモンのチューハイ



愛南ゴールドのチューハイ

有田みかんのチューハイ



山梨すもものチューハイ



モンドセレクションWorld Selection 2026
スピリッツ&リキュール部門 優秀品質金賞受賞

2026 World Premix Awards
SPECIALITY COCKTAIL部門 銀メダル受賞

沖縄シークワサーのチューハイ



2026 World Premix Awards
SPECIALITY COCKTAIL部門 金メダル受賞

福島もものチューハイ



● 「アスター 広島はっさく」「家バル ソルティドック」

ストレート果汁使用の低アルコール飲料



新商品



新商品

2026年3月発売

● 「からだに果実茶」

グアバ茶やグリーンルイボスティーといった健康茶をベースに、果実の香りと甘さを重ねたフレーバーティー



新商品



新商品

2026年3月発売

● 「とろぷる寒天ゼリー」

1日不足分の食物繊維が手軽にとれる「とろぷる食感」の寒天ゼリー飲料



新商品



新商品

2026年3月発売

● 「アスター 沖縄やんばるパインのチューハイ」

沖縄本島北部の「やんばる地域」で育まれたパイナップルのストレート果汁を使用した低アルコール飲料



新商品

2026年5月26日
数量限定で新発売予定

①
ブランド創造企業へ —
アシードブランドの拡販、輸出強化

②
自販機運営リテイル事業において
独立系オペレーター No1 へ

③
飲料製造事業の生産性向上
新たな製造ラインの導入

④
海外ビジネスの強化と事業投資

⑤
物流事業の強化

⑥
新規事業創出とシナジー創出のための
新規投資の推進

②自販機運営リテイル事業において独立系オペレーター No1 へ

- ・M&A・業務提携など業界再編を進める
- ・当社の強みを生かし、飲料メーカー主導のプロダクトアウトから小売り主導のマーケットインへの転換
- ・年度内に運営台数 32,000台超を目指す

【運営台数ランキング】

順位	運営台数	オペレーター名	本社所在地
1	73,500	アペックス	東京都
2	71,000	八洋	東京都
3	48,500	ユカ	東京都
4	32,000	サン・ベンディング東北	宮城県
5	28,500	アシード	東京都

矢野経済研究所:「2023年度版自販機ビジネスの現状と将来展望」より推計

●収益性の改善

飲料製造原価の高騰などの影響で、大手飲料メーカーが10月1日から希望小売価格の値上げを実施
当社も飲料の販売価格の改定を実施

●キャッシュレス対応

キャッシュレス対応機材を5,370台の
自販機に取り付け済み



●当社自販機の運営台数増加

日東ベンディング中国の子会社化により、当社自販機の運営台数が大幅に増加

※当社自販機は、飲料メーカーからの貸与機と異なり、各飲料メーカーの売れ筋商品を集約し販売可能

一定の効果があつたことから、今後は運営台数の増加による第2の成長ステージへ

●2000年以降のM&A実績

買収年月	地域	自販機台数	買収形態	現在	買収年月	地域	自販機台数	買収形態	現在
2000. 2	東 京	896	株式取得	合併	2011. 4	広 島	383	株式交換	グループ会社
2002. 3	京 都	250	営業権譲受		2012. 6	静 岡	204	株式取得	合併
2002. 7	宮 城	1.993	株式取得	合併	2018.12	大 分	135	営業権譲受	
2003.10	愛 知	1.700	営業権譲受		2019. 3	和歌山	203	営業権譲受	
2004. 4	青 森	420	株式取得	合併	2020.10	福 島	212	株式取得	2021.12 合併
2005. 9	石 川	750	株式取得	合併	2021. 6	茨 城	493	株式取得	グループ孫会社
2008.11	青 森	289	営業権譲受		2022. 4	佐 賀	301	営業権譲受	
2009. 7	広 島	240	株式取得	合併	2023. 2	神奈川	392	営業権譲受	
2010. 1	青 森	107	営業権譲受		2023. 8	宮 城	750	営業権譲受	
2010. 6	東 京	389	営業権譲受		2023.11	栃 木	456	営業権譲受	
2010. 7	青 森	376	営業権譲受		2026. 2	鳥 取	68	営業権譲受	
2010. 8	大 阪	459	営業権譲受		2026. 4	広 島	2,510	株式取得	グループ孫会社

自販機業界においてリーディングカンパニーになるべくM&Aを推進
上記以外にも営業権を無償譲受案件が増加

- ・缶・ペット・紙コップ・食品など幅広い自販機ラインナップ
- ・独立系オペレーターとして自販機を集約し、CO2削減に貢献
- ・独立系オペレーターでは唯一の上場企業として、飲料メーカーとのWin-Winの関係を構築



- クイックストアの運営(茨城県で先行導入)
(株)いいじまが運営する売店でクイックストア(セルフレジ & キャッシュレス決済)の導入を進めています。
クイックストア店舗数:15店舗
売店運営数:9店舗

今期は、店舗数の拡大に注力



①
ブランド創造企業へ —
アシードブランドの拡販、輸出強化

②
自販機運営リテイル事業において
独立系オペレーター No1 へ

③
飲料製造事業の生産性向上
新たな製造ラインの導入

④
海外ビジネスの強化と事業投資

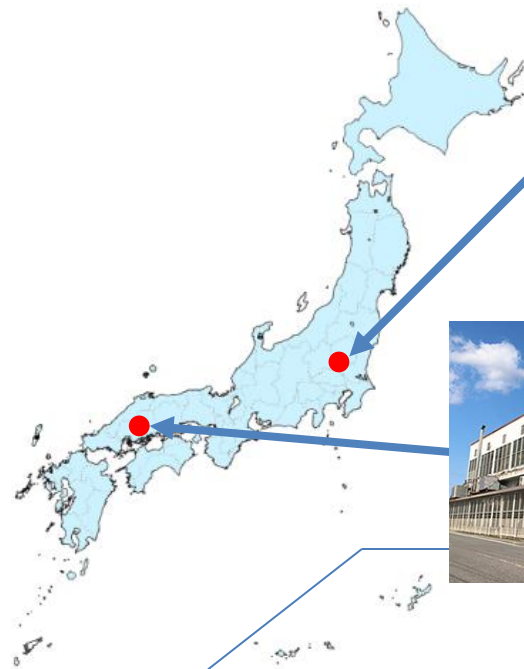
⑤
物流事業の強化

⑥
新規事業創出とシナジー創出のための
新規投資の推進

③飲料製造事業の生産性向上、新たな製造ラインの導入

- ・東西2工場体制の利点を生かし、物流コストの削減提案などによる受注増加や合理化を実行
- ・新たな製造ラインの導入
東広島飲料工場のソフトパウチライン稼働により、2027年1月以降 両工場です缶飲料およびソフトパウチ飲料の製造開始(同時にペットボトルラインを製造中止し、製造人員をパウチラインへ移行)

●東日本・西日本の2工場体制



宇都宮飲料工場

- ・炭酸缶
185~500ml
- ・ソフトパウチ
150g~300g



東広島飲料工場

- ・炭酸缶
250~500ml
- ・瓶
240~275ml
- ・ペットボトル
280~900ml
(2027年2月製造中止)

2024年10月の再編により両工場を統合

- ・物流コストの削減
- ・資材の共通化
- ・製造の合理化
- ・製造の最適化

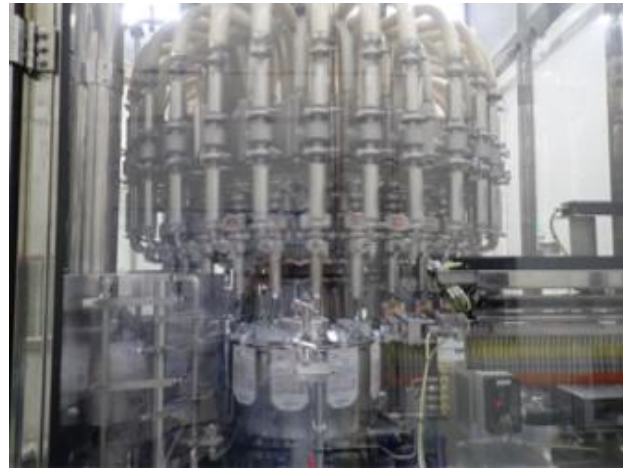


シナジー効果を高め安定した成長へ

- アシードブリュー(株) 東広島飲料工場にソフトパウチ飲料製造ラインの新設
 - ・建物および設備投資額 30億円(予定)
 - ・宇都宮飲料工場で2018年4月より、ソフトパウチ飲料製造ラインが稼働中で、操業開始以来順調に製造数量を伸ばし、フル操業状態。今回の新設により、ソフトパウチ飲料についても東西2拠点体制とする
 - ・2027年1月稼働開始予定
 - ・3ヵ年計画で稼働率を高め、年間245万ケース、経常利益3億円を見込む



ソフトパウチ飲料ライン(宇都宮飲料工場)



工場完成イメージ

- 静岡ローストシステム(株)への設備投資
新たな微粉碎装置の導入 約4億円(5月中旬稼働開始)



茶葉の微粉碎加工



新たな微粉碎装置

新たな微粉碎装置の加工能力:150kg/時間
年間の加工数量は現在の1,000tから1.7倍の1,700tまで向上

- 静岡ローストシステム(株)の営業利益
前期比199.5%増



南倉庫の建設

①
ブランド創造企業へ —
アシードブランドの拡販、輸出強化

②
自販機運営リテイル事業において
独立系オペレーター No1 へ

③
飲料製造事業の生産性向上
新たな製造ラインの導入

④
海外ビジネスの強化と事業投資

⑤
物流事業の強化

⑥
新規事業創出とシナジー創出のための
新規投資の推進

④海外ビジネスの強化と事業投資

- ・HaLong Beer And Beverageの成長・拡大を支援
- ・VIHAMARK GROUPの株式取得
- ・成長可能性のある飲料・食品事業への投資や飲料・食品メーカー・販売会社などとの資本提携

HaLong Beer And Beverage Joint Stock Companyの株式取得
(出資比率は30.42%)

- ・飲料製造のノウハウと、ハロンビールの販売チャネルを相互利用し、ベトナム国内はもとよりASEAN諸国でビール・酒類及び清涼飲料市場を開拓
- ・ベトナム以外のASEAN諸国も含め、更なる投資先の獲得を目指す

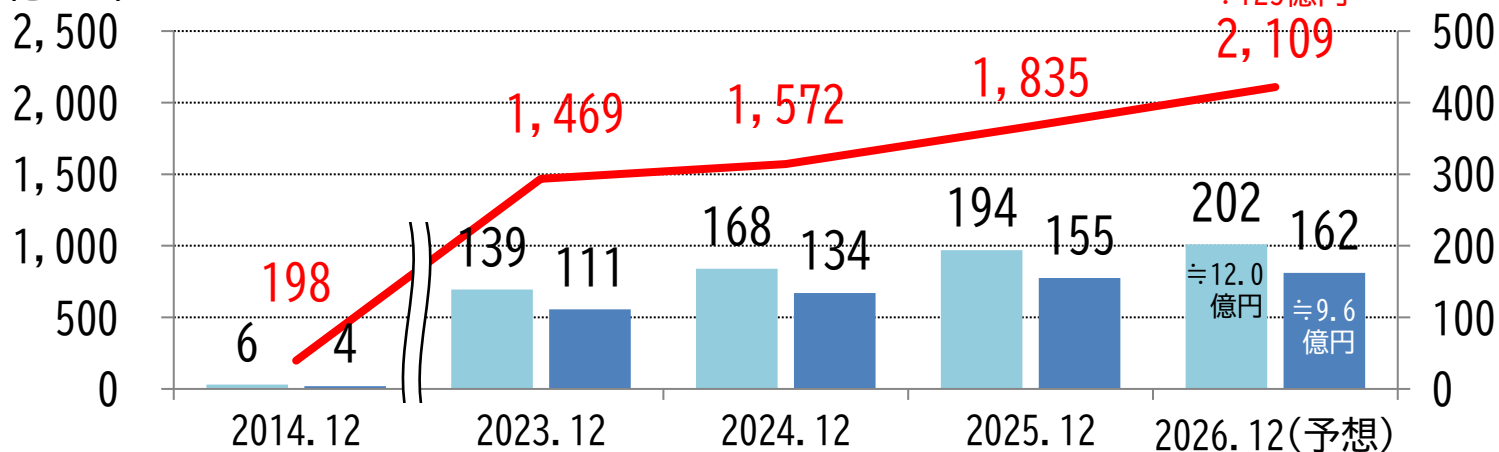


ハロンビールの業績推移

※10億VND = 約6百万円

- 売上高
- 経常利益
- 税引後利益

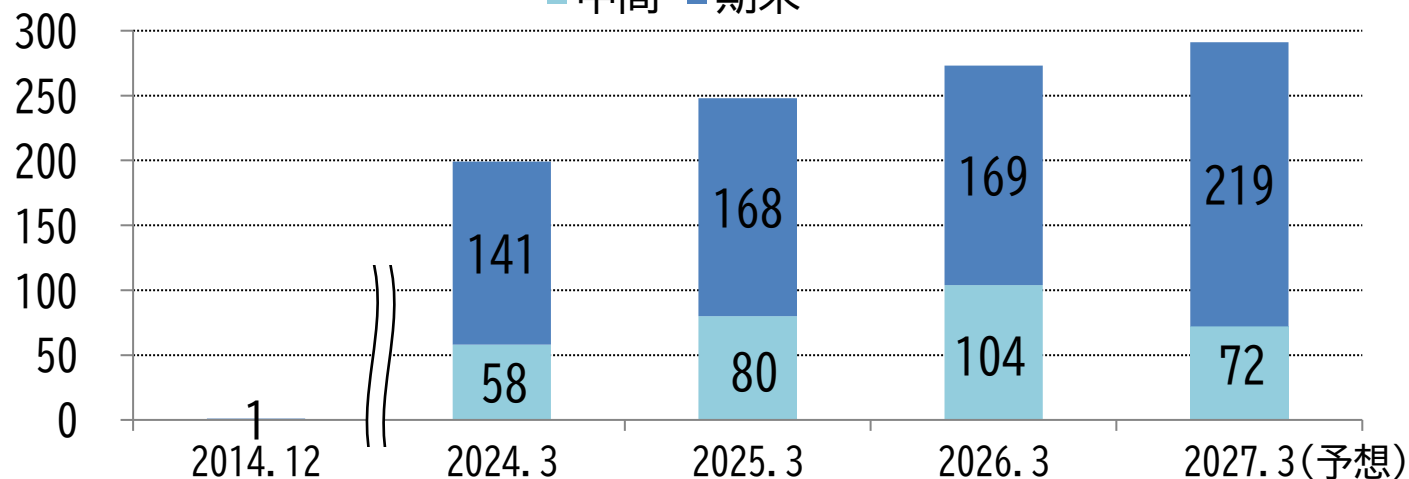
(10億VND)



ハロンビールの持分法投資利益の推移

(百万円)

■ 中間 ■ 期末



- VIHAMARK GROUP JOINT STOCK COMPANYの株式を2025年12月16日に取得
2026年1月16日に企業登録証明書の発給を含め、手続きが完了（出資比率は37.22%）

VIHAMARK GROUPは、ベトナム国北部において清涼飲料の製造販売を展開しており、
当社はVIHAMARK GROUPと連携して低アルコール飲料の製造販売を目指す

ベトナム国内での新たな販路の獲得による業容拡大し、当社グループの海外事業強化に寄与



①
ブランド創造企業へ —
アシードブランドの拡販、輸出強化

②
自販機運営リテイル事業において
独立系オペレーター No 1 へ

③
飲料製造事業の生産性向上
新たな製造ラインの導入

④
海外ビジネスの強化と事業投資

⑤
物流事業の強化

⑥
新規事業創出とシナジー創出のための
新規投資の推進

⑤物流事業の強化

- ・倉庫保管運営事業、ロジスティクス事業を強化
- ・自社グループの東西の物流部門の内製化が完了
- ・物流会社のM&Aを検討



①
ブランド創造企業へ —
アシードブランドの拡販、輸出強化

②
自販機運営リテイル事業において
独立系オペレーター No 1 へ

③
飲料製造事業の生産性向上
新たな製造ラインの導入

④
海外ビジネスの強化と事業投資

⑤
物流事業の強化

⑥
新規事業創出とシナジー創出のための
新規投資の推進



株式会社河村農園(2022年8月子会社化)
「世界一美味しい健康茶をつくる」という想いととも健康茶を製造



<https://www.kwfa.gr.jp/online-shopping/>



静岡ローストシステム株式会社(2023年4月子会社化)
各種茶葉の粉碎・焙煎・ブレンド・異物除去などの受託加工



マルサン萩間茶株式会社(2023年4月子会社化)
1000種以上の茶葉のオンライン販売



<https://www.chaoroshihonpo.net/>

●茶葉加工事業の事業規模 (百万円)

	売上高	営業利益
2025年3月累計	1,488	137
2026年3月累計	1,938	316




さらなる飲料・食品関連企業のM&Aを推進

1. 事業概要
2. 2026年3月期決算概況と今期通期見込
3. 成長戦略
- 4. ESGの取り組み**
5. 株主還元
6. 質疑応答

●CO2排出量(2025年3月期)

項目	実績
Scope1	9,206t
Scope2	5,302t
Scope1+Scope2	14,508t
Scope3	157,887t
Scope1/2/3合計	172,395t



CDPスコア2025

気候変動：B-
水セキュリティ：C

(注)算定結果は、一定の仮定や前提を置いて導き出しております。
また、独立した第三者による保証・検証を取得しているものではありません。

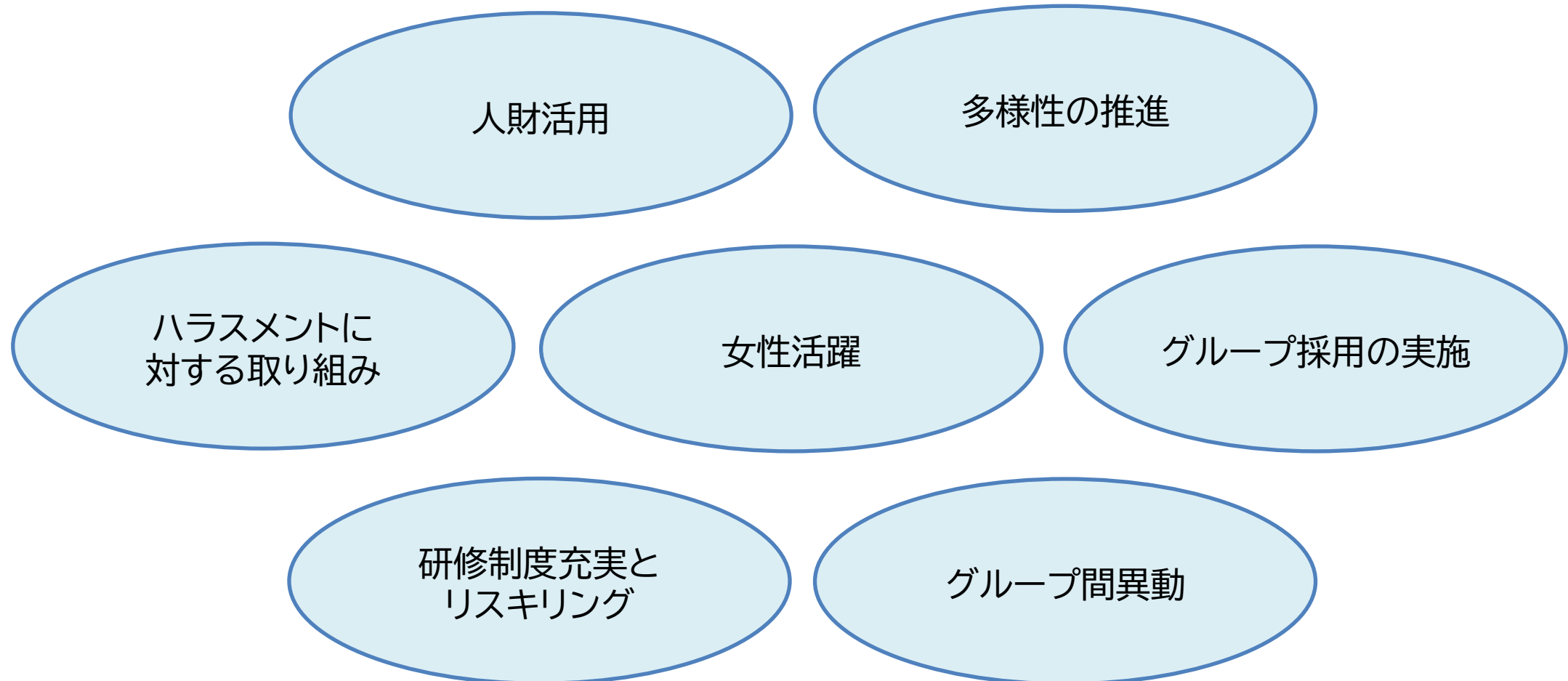
●設備更新の状況

2021年	アシードブリュウ(東広島)	屋根に太陽光パネルを設置
2021年	アシードブリュウ(宇都宮)	コンプレッサーの高効率化
2022年	アシードブリュウ(宇都宮)	照明のLED化
2023年	アシードブリュウ(宇都宮)	パストライザーの更新
2023年	アシードブリュウ(東広島)	新炭酸ラインの導入
2024年	アシードブリュウ(宇都宮)	屋根に太陽光パネルを設置
2024年	静岡ローストシステム	屋根に太陽光パネルを設置



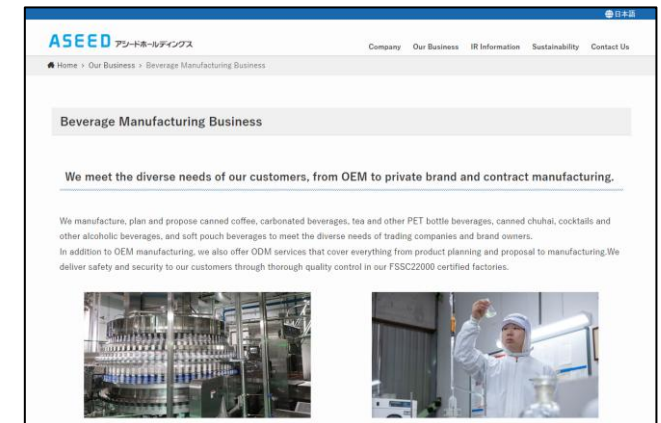
静岡ローストシステム
太陽光発電設備

人間尊重と人材育成を基本とし、社員の福祉向上と能力開発に努力し、働く個人に自己実現の場を提供します。

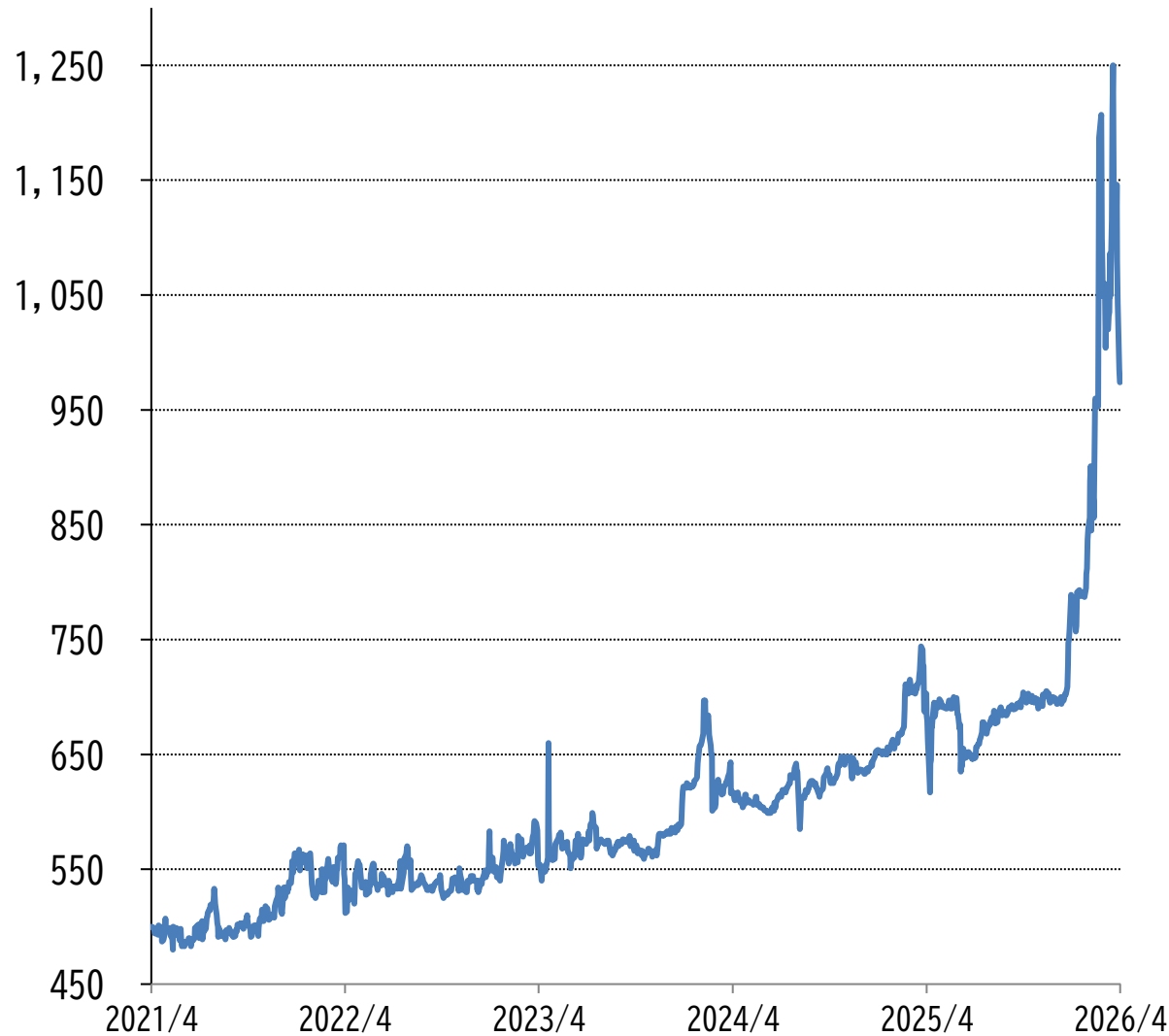


- 2021年1月 ・ 取締役会の任意の諮問機関として、指名報酬委員会を設置
- 2021年2月 ・ 取締役の選任に関する方針の決定
 - ・ 取締役の報酬決定に関する方針の決定
- 2021年5月 ・ 取締役会実効性評価を実施
 - ・ 政策保有株式の保有の適否検討
- 2021年6月 ・ 譲渡制限付株式報酬制度（RS）を導入
 - ・ 取締役8名のうち独立社外取締役3名の体制を継続
- 2021年6月 ・ サステナビリティ委員会の設置
- 2022年4月 ・ アシードHD Webページの英語版公開開始
- 2022年5月 ・ 議決権電子行使プラットフォームの利用開始
- 2023年6月 ・ 有価証券報告書にサステナビリティの記載開始
- 2024年6月 ・ 女性社外取締役の選任による取締役会の多様性向上
- 2025年6月 ・ 新たに女性取締役(大学教授)選任。女性取締役比率28.6%

英語版Webページ



1. 事業概要
2. 2026年3月期決算概況と今期通期見込
3. 成長戦略
4. ESGの取り組み
- 5. 株主還元**
6. 質疑応答



2021年12月

- ・自己株式の取得を実施
- ・自己株式立会外買付取引を実施

2023年7月

- ・立会外分売を実施

2024年1月

- ・貸借銘柄選定

2024年2月

- ・立会外分売を実施

2025年6月

- ・立会外分売を実施

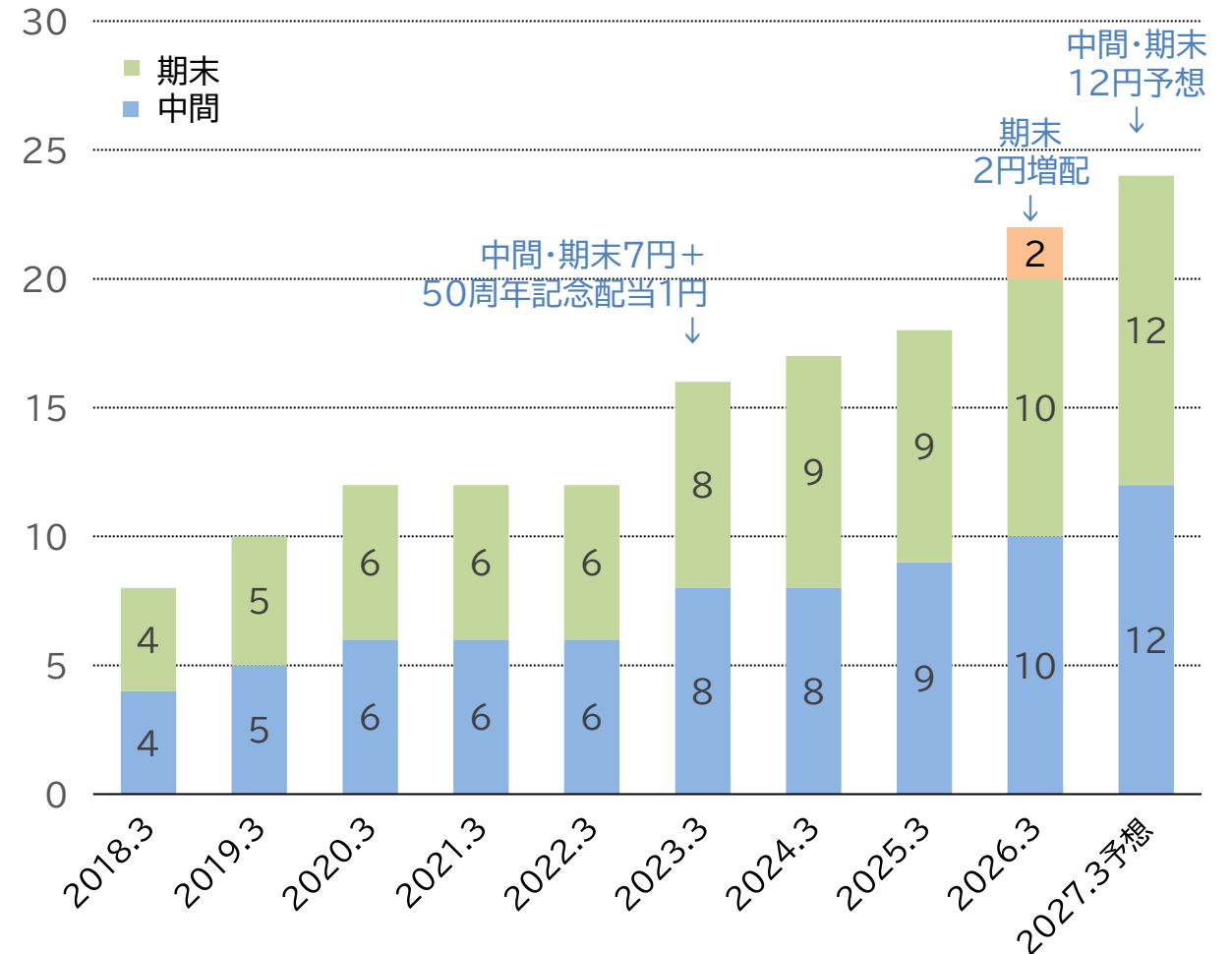
株券等の分布状況

	2025.3	2026.3
1単元以上株主数	7,593人	8,273人
流通株式数	35,427単位	35,690単位
流通株式時価総額	2,423百万円	3,399百万円
流通株式数比率	26.25%	26.44%

- ①2026年3月期 期末配当金は2円増配し12円
- ②今期は1株当たり年24円普通配当を予想
(配当利回り 2.92% 株価820円の場合)
- ③内部留保はM&A、海外投資、飲料設備等に
優先的に充当
- ④配当性向30%程度を基準に累進配当を継続
1993年の株式公開以降 減配することなく
配当を継続して実施

	2025.3	2026.3	2027.3 予想
1株当たり 配当金	18円	22円	24円
配当性向	29.7%	29.8%	29.6%

●配当金の推移(単位：円)



※ いずれか一点

	自社商品（アルコール飲料） 詰め合わせ 	自社商品（清涼飲料・お茶） 詰め合わせ 	QUOカードまたは デジタルギフト 
保有株式 100株以上	1,000円相当	1,000円相当	500円相当
保有株式 500株以上	1,500円相当	1,500円相当	1,000円相当
保有株式 1,000株以上	2,500円相当	2,500円相当	2,000円相当
保有株式 2,000株以上	3,500円相当	3,500円相当	3,000円相当

78.4%の株主様が自社商品詰め合わせを選択

優待を含めた実質配当利回り:2.4% (2,000株)～ 3.2%(100株) 3月末株価974円、配当年22円で想定

本資料に記載されている、当社又は当社グループに関連する業績予想・計画・経営戦略・方針などは、将来の見通しに関する記述であり、これらは、現在入手可能な情報に基づく経営者の判断などを基礎としています。これらの将来の見通しに関する記述は、様々なリスクや不確定要因の影響を受けるため、現実の結果が想定から著しく乖離する可能性がある事をご承知おきください。

また、当資料はあくまで当社を理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするものではありません。さらに将来の予測のみならず、過去の部分も含めて見直し等により予告なしに変更することがありますのでご注意ください。

本資料・IRに関するお問い合わせ先

アシードホールディングス株式会社

経営企画グループ

T E L : 084-923-5552

E-mail : kikaku@aseed-hd.co.jp

U R L : <https://www.aseed-hd.co.jp/>